

福岡県医師会勤務医交流会

テーマ『勤務医が医師会に望むこと』

福岡県医師会勤務医部会・男女共同参画部会合同研修会

テーマ『勤務医と医師会のつながり

～コロナ禍での地域医療を経験して～』

令和5年3月18日(土) ホテルニューオータニ博多



勤務医交流会

『勤務医が医師会に望むこと』

令和5年3月18日(土)に、コロナ禍にて開催を中止していた勤務医交流会を約3年ぶりに開催した。

本交流会は、県内の若手医師、医学生、中堅医師の生の声を聞き、実効的な勤務医意見の集約・支援活動に反映するため勤務医部会委員会で企画したものである。

1グループ7名(ファシリテーター1名、医学生2名、研修医2名、中堅医師2名)で構成し、4グループでそれぞれディスカッションを行った。

ディスカッション後は、総括ファシリテーターの本会戸次鎮史常任理事の進行で、各グループから、テーマである「勤務医が医師会に望むこと」の現状、原因、問題点、解決策等について発表があり、医療現場で日々感じていることや将来への希望について率直な意見が聞かれた。以下、主な意見を掲載する。

<Aグループ>

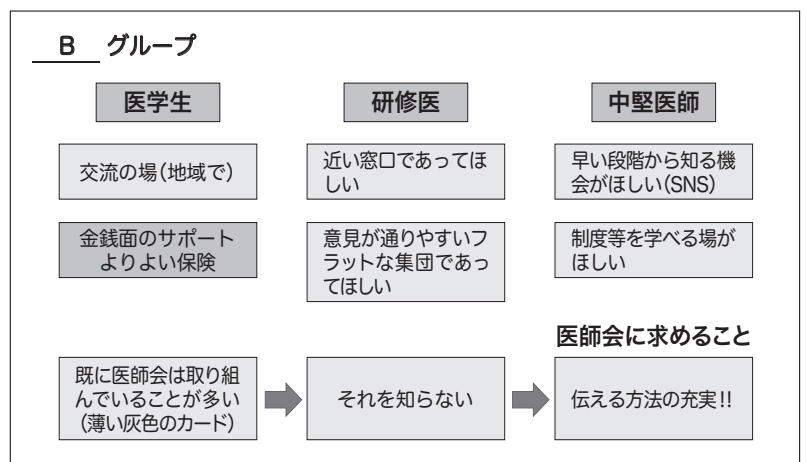
A グループ			
医師会は開業医の集まりの印象	医師全体としてのメリットを伝える	もう少し医師会について知る場があれば...	意見を訊かれることが少ない
		活動報告を目にすることが少ない	学会での広報
周りの人が入会していないと入会しづらい	医学生にとってはなじみが全くない	医師会報を病院にはる	フィードバックがないと“私たちの代表者感”が薄い
		SNS	アンケート(SNSで)
会費は個人負担?	医師賠償保険があるのはありがたい	大学に来て情報発信してもらえると分かりやすい(女性医師バンクなど)	講演会の開催(大学生向け)
		医師会の未来	
会費の負担	補償の具体性(個人へのメリット?)	もしもの時に頼れる存在	

- ・医師会の現状について、医学生、研修医は特に全くなじみがなく、開業医の団体という印象が強い。周りにも医師会入会者が少なく加入しづらいという印象。
- ・組織強化の問題点として、医師会から勤務医へ意見を聞く場が少ないということ、また、勤務医が医師会について考える場が少ないということが挙げられる。
- ・医師会から勤務医へ意見を聞く場が少ないことの解決策として、SNSを使ったアンケート調査などを実施するといったのではないかと。
- ・医師として医師会について考える場が少ないことの解決策として、現状では未入会の医師は医師会が何をやっているの

かわからないため、会員医師の先生が所属病院でポスターを貼ったり周知をするなど、医師会の広報を充実させる必要がある。

- ・医学生、研修医は特に医師会になじみが少ないことの解決策としては、日医女性医師バンクについて大学に来て情報発信をしてもらったことがあるという意見があり、やはり医師会について知る機会を提供していくことが重要。
- ・会費が一番大きな問題点。多くの医師が学会費などで年間10万円近く支払っており、それにプラスして医師会費を支払うとなると負担が大きい。

<Bグループ>



Bグループでは、テーマについて医学生・研修医・中堅医師のそれぞれの立場で意見をまとめた。

- ・<医学生> 医師会は地域の交流の場であって欲しい。交流会などが開催されていることを知らなかったが、このような場だと実際に勤めている医師の話を伺え、さらに医師会がどのような組織かを知ることができるため有用。また、日医医師賠償保険のサポートは充実しており安心できる。
- ・<研修医> 医師会は「教授会のようなかなり遠い存在」という認識であるため、すぐに相談できるような近い窓口であって欲しい。また、勤務医が意見しても届かないというイメージのため、意見が通りやすいフラットな集団であって欲しい。
- ・<中堅医師> 早い段階から医師会がどのような組織なのかを知る機会が欲しかった。今の御時世では、SNSを使った周知が効果的。
- ・介護保険制度や高額療養費制度などの制度関係については、大学の公衆衛生学で学ぶ以上のことはあまり分からないため、こういった制度を学べる場があると良い。
- ・結局は、上記にまとめた表の薄い灰色のカードは既に医師会が行っており、それを勤務医が知らないだけということであった。

(2) 勤務医のつどい

つまり医師会に求めることは、これらの医師会事業を伝える方法を拡充することであると結論付けた。

<Cグループ>

C グループ		
医師会について広めるには	医師会に望むこと	イメージ
活動内容をSNSで広める	これまで勤務医のめにしてきた活動が不明	医師会に入ると自由がなくなる?
発信法としてSNS	シーリングの情報が早くほしい(研修医)	自分が入ってる? わからない
On time の情報発信	文献検索のネットワーク	医師会って政治の団体?
会費高い6万円くらい	国試の金銭的なサポート(医学生)	医師会入会理由病院からの指示
入会手続きが大変	入会しない人の意見を知る	医師会について知る機会がない(医学生)
医師会の必要性!		
大学に説明に来られてもへ〜で終わる ⇒何か興味を強く引くものが1つでもあれば		

- ・医師会に入ると仕事が増えて自由がなくなる、また、メディアでの報道などにより医師会は政治団体というイメージ。
- ・会費については高いと感じるので安くしていただきたい。
- ・医師会についてこれまで案内されたことがない方が多く、医師会について知る機会がないことが課題。
- ・その解決策として、医師会が今取り組んでいることをオンタイムでSNSを利用して情報発信していくことが重要。
- ・医師会に望むこととして、医学生からは国試のサポートや模試受験の金銭的なサポート、研修医からは専門研修のシーリングについての迅速な情報発信や、医師会員になることによって文献検索のネットワークができるなどの意見があがり、このような支援があると入会のメリットとなる。
- ・医師会の必要性が分からないので入会に繋がっていないのではないか。医師会の必要性についてシンプルで分かりやすくまとめ発信する必要がある。
- ・これまで医師会が勤務医のためにしてきた活動が具体的に分からないというところがあり、入会の意義も分からない。そのため医師会に望むことは、勤務医のための取組内容や入会の意義、メリットなどを明確にすること。
- ・会員数が増えると政治に対する組織としての力は大きくなり、そのことも入会意義として周知していくことが重要。
- ・新しい制度として、医学生の頃から入会できる「プレ医師会」というような組織を作り、医師になってからは医師会に入会するという条件にプレ医師会に入ってもらい、まずは医師会に関わりを持ち実際に医師会の支援を体感して、医師になってからは医学部卒後5年間は会費無料のため、その流れでそのまま医師会員となる流れを構築するといったのではないのか。

<Dグループ>

D グループ		
医師会にどうしたら入るか	医師会に求めるもの	
説明会(医学生)	医師・医療現場の実情を国民に対して発信	主治医制をなくす
メリットに関する情報提供	給料格差(医学生)	PT, 国民への発信
県をまたぐ異動が多い	臨床研修における協力体制(医学生)	子育て支援女性の立場マンパワー金銭的など
意見の反映働き方改革など	研修病院による経験の格差是正(医学生)	
	情報へのアクセスを容易に	
	スポーツ Dr 産業医	

Dグループでは「勤務医あるいは研修医がどうやったら医師会に入会するか」ということと、「勤務医が医師会に望むこと」という大きく分けて2つのことについて話し合った。

【勤務医あるいは研修医がどうやったら医師会に入会するか】

- ・医師会の説明会などが各大学にて行われていても認識されていない状況があるので、学生時代のうちから医師会のことをもっと知る機会を増やすことが必要。
- ・勤務医が医師会に入会すると実際にどのようなメリットがあるのかということについての情報発信を行う。
- ・若手医師の問題点として、医局に所属すると県をまたぐ異動が多い状況となり、そのことが地域の医師会に入る足かせになっている。その点に関して入会方法の変更や異動手続きの負担感が解消されると入会しやすくなるのではないのか。
- ・スポーツ医や産業医など医師会認定の資格を増やし、日本医師会が率先して医師を養成しサブスペシャリティの旗振り役になっていただくと勤務医が参加する機会が増えるのではないのか。

【勤務医が医師会に望むこと】

- ・医学生、研修医は臨床研修に関する興味が非常に強く、各臨床研修病院の特徴は様々だが、地域の医師会の先生方に協力していただき自分の病院では学べないものを学べる体制ができると医学生、研修医が医師会に入る機会になるのではないのか。
- ・現在、勤務医にとって働き方改革にどう取り組んでいくのかは大変大きな課題であるが、実際に求められていることに取り組もうとすると、働いている勤務医の負担が大きく、自己研鑽と勤務時間の問題や給料の減少が危惧されるなど多くの不安点も残る。医師会がそのような問題に政策として取り組む団体であるならば、このような勤務医の現状を取りまとめ国にあげていただくと非常にありがたい。
- ・主治医制度からチーム医療へ促進するような雰囲気づくり、政策づくりについても上記と同様。
- ・医師、患者関係だけでなく、地域住民や国民に対してどのような発信をしていくのかも重要。例えば、不要な救急車を呼ばないような働きかけなど、一般市民に対する啓発活動を積極的に医師会からしていただけると勤務医が医師会活動に参加しやすくなる。
- ・各病院において子育て支援に取り組んでいるが、まだまだ男性医師が子育てに参加できていない現状がある。マンパワーや金銭面、女性医師へのサポートなどの子育て支援についても医師会に対し求めていきたい。



勤務医部会・男女共同参画部会合同研修会 『勤務医と医師会のつながり～コロナ禍での地域医療を経験して～』

同日、勤務医交流会終了後には、勤務医部会・男女共同参画部会合同研修会を開催し、「勤務医と医師会のつながり～コロナ禍での地域医療を経験して～」をテーマに3名の講師より講演いただきシンポジウムを行った。

日本医師会角田徹副会長より『勤務医と医師会のつながり コロナ禍での地域医療を経験して～働き方、男女共同参画についても考える～』、岐阜県医師会伊在井みどり会長より『医師会活動における女性医師のキャリア形成』、本会一宮仁副会長より『勤務医にとっての医師会』とそれぞれの立場から貴重な講演をいただいた。



「勤務医と医師会のつながり コロナ禍での地域医療を経験して ～働き方、男女共同参画に についても考える～」

日本医師会副会長 角田 徹 氏



医師会とは、医療現場において日夜、かかりつけ医、あるいはかかりつけ医と連携する専門医として、診療に携わる医師で構成されている団体です。医師会は平時より、医療提供体制づくりの政策を立案、遂行する国・都道府県・市区町村などの行政と協議を重ねており、医療現場の声を聞き、その課題を体制づくりに繋げることが医師会の役割です。医師会組織は全国にあまねく設立されており、国・都道府県・市区町村の単位で連携を取って活動しています。こうした強みを活かし、平時では「顔の見える関係」を築き、有事においても国民の生命と健康を守る体制を一層充実させていく必要があると考えています。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大時においても、国・都道府県・市区町村は、財源を確保しながら様々な政策を立案・遂行してきました。例えば福岡県医師会では、行政と連携し、第1波より宿泊療養施設での医療支援・健康観察を開始し、宿泊療養に関するクリティカルパスを作成するなど積極的に活動されました。また、何らかの理由によりコロナ対応ができない医療機関であっても、多くの医師は地域医師会の休日夜間急患診療所等での発熱外来やワクチン接種等に参加していただきました。その他、今回の感染症法改正でも医師会と行政の連携のもと新しい政策が創設されております。

日本医師会がコロナ対応で大切にしてきたことは、「コロナ医療と通常医療の両立」、「各地域での役割分担と連携」および「それらの取り組みを支える国からの財政支援」に重きを置いて取り組んで参りました。有事の際には特に、一人の医師、一つの医療機関だけの努力では対応できません。地域の医療機関で役割分担ができれば現場は疲弊し、医療崩壊へと繋がってしまうため、役割分担と連携の体制づくりが必須となってきます。このように医療は、患者さんに接する現場と、それを支える体制・政策の両面で考えていく必要があります。日々の診療活動だけではなく、それを支える医療提供体制づくりにも関心を持つことが非常に大切です。

医師会は「全ての医師を代表する組織」として行政に認識されていますが、組織率が50%を切るようになっては、その発言力が低下し、医師会の役割を果たしていく上で大きな影響を及ぼす可能性が出て参ります。有事においても、平時においても、国民の生命と健康を守り、医師の医療活動を支援するという医師会の役割を担い続けていくためには、減少傾向にある医師会の組織率を上昇の方向に転じさせ、「全ての医師を代表する組織」としてのプレゼンスや発言力を高めていくことが大変重要です。

そのため日本医師会は、令和5年度より医学部卒後5年目までの会費減免期間を延長いたしました。先生方におかれましては、ぜひとも医師会に未入会の同僚や後輩医師に医師会活動の重要性を説明いただき、より多くの先生方に医師会活動に参画いただけるようご協力をお願いいたします。

また、組織強化のためには継続的な取り組みが必要不可欠です。
①組織強化に取り組むための仕組みづくり、②三層すべての医師会への入会と、開業医については廃業後も医師会員として残ってもらうための取り組み、③会費減免と、会費減免終了後に医師会に残ってもらうための取り組みなど、これらについてぜひ各医師会においてご検討いただきたいと思います。

日本医師会といたしましても、地域医師会との連携をより一層密に図るなかで、医療現場の先生方の声を踏まえた、より説得力のある政策立案・提言を行い、先生方とともに医療界が求める法律・制度を実現して参りたいと考えております。

医師会活動の基本は郡市区等医師会にあります。医療現場における先生方一人一人のお声が、その職責を存分に全うしていくための環境を整備し、我が国の医療をより良い方向に変えていくことにつながるものと確信しておりますので、引き続き本会会務に特段のご支援をいただきますようよろしくお願いいたします。



「医師会活動における 女性医師のキャリア形成」

岐阜県医師会会長 伊在井 みどり 氏



私は岐阜大学第3内科で専門研修を行っていた頃、第一子である長女を出産しました。産前6週間、産後4週間の産休を取り、その後はすぐに職場に復帰しました。夫は国内留学しており週末に帰ってくるのみでしたので、育児中は、家政婦協会に依頼して来ていただいていたシッターさんと、近所に住んでいる私の祖母を頼りにして、仕事をしながらの育児を経験しました。子どもたちが大きくなり、40歳を超えたらボランティア活動をする決めており、その一環として医師会活動をスタートさせました。

一般人口でも若い女性の就労人口が低下し、M字カーブが存在しているように、女性医師も若い女性医師が活躍する一方で、25～29歳で44%、30～34歳で42%と高い離職率の問題も存在しております。医師不足が社会問題化する中で、年々増加している女性医師の離職防止・復職支援はより一層注目されておりますが、ライフイベントとキャリアの両立は決して簡単なことではありません。

私自身の経験も含め、女性が医師としての人生を全うするために必要な要素が3つあると思います。

1つ目は、自分自身の努力で、医師、妻、母としてすべて完璧を目指すことは難しく、また周囲への配慮が必要ではないでしょうか。しかしながら、医師としての信用に足だけのスキルは維持しなければなりませんので、それぞれ70点を目指して日々頑張っていました。

2つ目は、家族・社会の理解と協力です。医師という職業上、社会的責務がありますので、それを家族が理解し支援する必要があります。また、保育園、児童保育、ベビーシッターなどの子育て支援機関の充実、家政婦、ヘルパーの普及など、社会の理解も不可欠かと思ひます。当時利用していた保育所は延長保育

(4) 勤務医のつどい

で8時から18時まで利用できましたが、通常保育時間では対応できない二重保育が必要な時や、工作中、急に子どもの体調不良等で連絡があった際も看護婦長に面倒を見ていただき、仕事をすることができました。やはり子育て支援機関、スタッフの充実は大切な要素だと思います。

最後に3つ目は、職場の理解と協力です。私は研修医一年目にロールモデルとなる2人の子どもを育てながら常勤勤務されていた女性医師に出会いました。キャリアの継続及び向上には常勤医での勤務を続けることが重要ですが、様々な勤務形態を選択できることや、子育て中の医師だけでなく、職場全体の労働条件を改善していくことが重要だと思います。

女性医師の離職防止、復職支援のみならず、より専門性を高め、高い役職や収入を得られるようなキャリア支援を行っていくためには、女性医師自身が若いころから自身のキャリアデザインを考え、ロールモデルを含め自ら人に会って情報を得ること、そしてできない理由を探すのではなく、どうしたらできるかを考え、将来の女性医師のために自分自身がロールモデルになるのも良いのではないのでしょうか。

私は日本医師会組織強化検討委員会の委員長を務めており、日本医師会の組織力強化のための具体的な方策等の検討を行っております。委員会のご挨拶で日本医師会松本吉郎会長もおっしゃっていましたが、まずは若い医師に医師会へ入会していただき、その後も医師会会員として定着いただくことが重要です。そこで日本医師会では、今年度より会費減免期間の延長を実施し、卒後5年間の研修医および勤務医の会費は無料となりました。また、郡市区医師会へ入会されている会員で、日本医師会に入会されていない先生方が約3万2千人いらっしゃいますので、いかに日本医師会まで入会していただくかも重要と考えております。岐阜県医師会では、大学医師会以外の郡市区医師会から本会に入会する会員全員に日本医師会へ入会いただいておりますが、各都道府県医師会で日本医師会までの入会を促す取り組みを行っておられることと思います。

また、本委員会にて都道府県医師会へ実施したアンケートの結果によると、医師会の入退会や異動手続きの簡素化が大きな課題ですが、医師会組織はそれぞれ別法人であり、具体的なシステム構築には至っておりません。

やはりまずは、医師会員への入会促進が重要です。会費減免期間の延長だけでなく、医師会活動の本質的な部分への理解を深めていただくことや日本医師会が政策にどう関わっているのかを知っていただくことが重要だと思います。日本医師会では、現在若手医師向け入会案内冊子「ドクターゼ別冊」を刊行しておりますが、医師会入会の意義についてわかりやすい内容となるよう大幅に見直しております。また、公式YouTubeチャンネルにも若手医師向けに医師会入会の意義やメリット等を紹介する動画を掲載し、全国の医師会に広く活用いただくなどして組織率の改善につなげてまいります。

このような様々な取り組みが、医師会活動への積極的な参加を促し、会員の半分を占める勤務医の組織強化につなげていきたいと考えております。



「勤務医にとっての医師会」

福岡県医師会副会長 一宮 仁 氏



そもそも、医師会とは何でしょうか。勤務医の皆さんの医師会イメージは、開業医の先生方の親睦団体あるいは利益団体であったり、入会したくても会費が高い、病院の勤務が忙しくて医師会活動に参加する時間なんてない、結局、行政の言いなりになるのでは？などの印象をお持ちのことと思います。

私自身の経験についてお話しします。25歳で医師となって外科医の道を進み、43歳まで大学医局に属して医局人事に従っていました。その間の私の中での医師会は、名前しか知らず、その

ような団体があるんだという程度の認識でした。43歳で浜の町病院に赴任し、部長になると病診連携のため病院主導で受動的に医師会へ入会し、その後、副院長になると充て職的に福岡市勤務医会の役員となりました。その時初めて医師会への印象が変わりました。勤務医や公的病院の管理者が抱える多くの問題や政策、制度に対応する苦労などを共有でき、それまでライバルであった近隣の病院の先生方とも仲間意識が強くなって、この問題点や課題をどこかへ訴えていかなければならないという意識に変わりました。その後、福岡市勤務医会の会長を経て、勤務医の代表として福岡市医師会の役員となり、今度は地域の開業医の先生方の抱える課題やご苦労を知ることで、共に地域医療を支える医師としての仲間意識が深まり、勤務医と開業医の役割分担と連携、また地域医療を支えるために勤務医や病院がどうあるべきかをさらに強く意識するようになりました。

その後、福岡県医師会の役員となり、県医師会では県行政に対し医療や介護、公衆衛生、保健に関する医療政策について、医療現場での現実・課題を踏まえた提言をすることで行政と一緒に地域医療を守り、そこに携わる医師の診療や生活支援についても医師会が重要な役割を担っていることを改めて認識するようになりました。昔は医師会に対して全く興味もなかったのですが、現在の心境はもっと早くから医師会活動に参画できていればよかったと感じています。

今般の新型コロナウイルス感染症の対応を振り返っても、県内での感染前から県医師会は県行政と協力して対策を協議・実行してきました。その内容は、病床確保、ホテル療養、検査診療医療機関、電話相談窓口、ワクチン接種体制の構築、治療薬、検査キット、PPEの確保・供給など多岐に及びます。対応にあたっては、当初は主に勤務医が検査・入院療養に携わり、感染拡大に伴い開業医や民間病院も診療に加わり、勤務医・開業医が一体となって地域医療を守り抜きました。このことからわかるように、医師会の最も大切な役割は、医療政策に関して専門家として提言し、行政と一緒に協力をし、地域の保健・医療・介護提供体制を整備し国民の健康と生命を守ること、また、それに携わる医師の医療活動・生活を支えることです。

また、私が医師として過ごしてきたのは、経済が成長していた人口増加の時代ですが、これからの先生方は、急激な人口減少の時代を医師として活躍することになります。今後は労働人口が減り、高齢者は2040年には4000万人と増加し続け、高齢化率は35%を超えと言われています。時代背景の違いから、医療政策は変わっていかざるを得ず、現在、勤務医の将来に関わる多くの医療政策が進行中です。若手医師の先生方にとっては、これらの医療政策がこれからの勤務形態や働き方、また、将来開業する場合にも大きく影響してきます。このような医師の生涯に関わる医療政策について、医師会は行政とともに日々協議や検討を行っているのです。

日本医師会および福岡県医師会では、これまで臨床研修医を対象としていた会費減免（無料）期間を今年度より医学部卒後5年目まで延長することといたしました。これに伴い、対象期間中の研修医および勤務医の会費は無料となります。医師会では、会員に対する支援として、オンライン診療や電子処方箋の発行に必須となる医師資格証の発行料無料での取得、医師会スタッフならびに顧問弁護士のサポートや損害賠償請求金の補填などが受けられる「医師賠償責任保険」、医師独自のキャリアに特化した予定利率の高い積立型の私的年金である「医師年金」、このほかにも医師国民健康保険、医師信用組合、生涯教育、産業医・スポーツ医の認定研修制度、女性医師支援など様々な支援を行っています。新たに作成いたしました入会案内リーフレットにてぜひ各種支援の詳細をご確認いただき、会費減免期間中に一人でも多くの医師に、医師会活動を内部から体験し、会員限定の様々な支援をご利用いただきたいと思っています。

国民にとっては、誰もがより良い医療が受けられるように、私たち医師にとっては、生涯にわたりやりがいを持って医療に従事できるように、医療政策に提言できる唯一の職能団体である医師会の組織力を高め、医師の総意として適切で強い提言ができるよう、皆様の入会を期待しています。